

部報

第5号

全学院バスケットボール倶楽部

大学籠球部の諸君へ

監督 鈴木正三

前号で私は勉強とスポーツの両方にふれて若干所見を述べたおきまされ本号より引続きこの事について筆を走らせませう。

一、部の年間のスケジュール、シーマンと自分のスケジュール、シーマンとシーマンオフがある事は錯覚は百も承知でせう、従つてシーマン中はバスケットボールオリの生活が出来るところにシーマンオフに勉強する事です、致る有名なホギーと勉強を並立させて立派に自分の望む学校に進学し成功している実例があります。彼は大連一中から三浦京大とスムイ又に進級して立派な成績で卒業しホギー野へアイヌホッケーを志願していています、彼の中学時代は野球に生々立派の指導の指導でシーマンオフには一生懸命勉強し、シーマンに入つたらホギーオンリーの生活をしたらということですが、之は彼が誠が良かつたという事、時間の使い方の上手だつたのです、かくして、段々困難だと言われていた勉強とスポーツを立派に両立させたんだとあると私は諸君に勧告し紹介する次第です。

二、気持へ、私は体育理論の時にも申しました所ある学校の教練の教官が検閲の行軍老年の成績をあげる為に毎朝朝礼の際三十分全校生徒行進け足をこせ一年生に前年夏の最悪の成績を最上の成績にしろという指導が私の練習もこうありたいものです、全身が必ずスウェットに焦つて必ず練習場に出て一語に練習するべきとせ良き成績をおげる秘訣です、これが出来るか否かは一にかぎて諸君の心構へにある事です、この事が出来るか出来ないかは練習として一人前ではないばかりが効果はあがりませぬ、一分練習つて新年は努力して永ませう。三、当然な事お説きない。

学生が

彼に教える所然味です、又学生は勉強する事も当然の事です、更に練習が練習する之も当然するほど自然な事で、一、練習に出る前に自信があり、又何をどうして練習するに当るべきか、この為には練習をしていませぬ、然しこの自然な事は彼々出来ないので、いまするとなる人と人の弱点を顕し出してよます、全く生に等しい事だとは言はずはなりません、私達は折角心は部生活を通じてこの当然の事を他人の苦もなく出来るようにならなければいけません、この為には諸君は良

再び主將となつて

坂口 知夫

僕が主將の大役を引き受けてから早くも一年になろうとしてゐる。春休みの練習から始つたこの一年向矢張目標は秋のリーグ戦を屈指していろく計画を進めて来た。併し思つたようなこともなかく實現出来ずその最後の目標としたリーグ戦さをも、チームのコンディションを安定する事が出来なくて調子の良い時には強いチームを楽々と敗り、又調子の悪い時には弱いチームと苦しい試合をして破れる筈、大学籃球部創立以來一番困難な大事な時季に直面した主將としてその責任を果し得たかどうか非常に疑問に思つてゐる。

僕が昨年大学の主將に選ばれた時、目標とした事は今述べた如く秋のリーグ戦ではあつたがそれよりも前にもう一つ大きな事を心掛けていた。それは大学籃球部を本當に学生の集りである。勉強もやれ運動も集れと云つたような部にしたかつたことである。

そも／＼大学生活と云うものは学校で學んだ事をそのままに遇すのであれば大凡意味の無いものになつてしまふであらう。學んだ事をすべてを知る必要はなくともその一部をまきまき完全に自分のものにして物事に対す

友と分り相互に助け合つて勵ましあつて下さい。新年度の役員も既に決定しました。新年度は是等役員を中心にじみちな部生活をつぎけようではありませんか。

本年回顧 (その二)

あゝ、あゝ、あゝ。止めど盡きせぬ溜息が不筋奏曲。今正に刻一刻と過ぎさらんとしてゐる昭和廿七年を省みて駄弁を弄するでしょうか。もとよりへらへらず口をきくことを厭われない者でありますから、暴言失言の段は平に御容赦を。又個人的偏見のあることは否定出来ない事実であります。

ゆき駐財の駄賃に、目を広く国内にむけるに、初春一月慶大全日本優勝、次いで二月には南園フライリッパ・エア・ラインズの未翔、そして秋九月「最大のセ術と最大の慰安」となむいける久ロース・トロツカースの討日。南東大学リーグ戦では立大十何年ぶりの優勝、又全日本学生選手権に立大初優勝。等々々。

ところで、サアテか立会い。こゝるレンズを左近付し、その焦点を學習院籃球部に合せて見よう。

る自分の判断の基準とする事が必要なのではなからうか、併し學んだ事のその一部をさへ自分のものにする
と云う事はなかく困難なことである。

この実運動部と云うものは部員同志の互いの人格の培養に依つて教室で學んだ個人的人格的なもの支那人関係に依つて磨きをかける唯一の場所のよう思われる。勿論運動をすることは勉強を行つたに並ぶ等に依つて支障を起す事は認められる。併しそれだけの理由で運動を捨てると云う事は本當に勿体ないような気がする。飽く迄勉強と運動の両立を心掛ける事が運動部員の務めでもあり、又それに依つて大学生生活が有意義たり得るのではなからうか。

この様な事を考えて一年間これを部の方針として考へ又実行しようとしたが僕自身優柔不断の性格の爲に鈴木先生始め評定諸君にいろいろ迷惑をかけた事を申訳なく思つてゐる。

此度主席に再選されもう一年間その大役を努めることゝなつたが僕も引き受けた以上は全力でやるつもりであるし、又僕の今迄部に対する態度を反省し、改めて実行に移して行き度いと思ふ。尚評定の使つて言を初め部員諸君の協力をお願いする。又、部員自身の身体的方針については次号に述べようとする。

一年の回顧 — 部生活 —

増田 邦久

僕がこのバスケット部に入つたことは、今迄に、生活には全然経験がなかつたし、それに学校の正時間以外をふみはずさなかつた僕にとつてはもうあつた一年にもなるが、愈に角感性が強かつたの事實である。

今更、どんな動機でどんな考へで部に入つたかといふことはのべることゝなからう。併しこゝではつきと云つてあきたい事は、我々一年生は中等科を卒業外にはバスケットの練習をやらなかつたといふこととして下級生はバスケット部を作つてあり。体力のはあるにしても設備にうまく、我々はそれに追いつけず、又高等科二年になつた時の事を恐れていたといふことである。僕が入部へ勧誘したときもその理由で断つた二、三人の者もあつたといふ事がある。そのよう複雑な気持ち練習は始まつたが、上級生との間に何へだてられてゐるものがあつた。たしかに上級生はな感じの良い人達だつた。あどくしして僕を親に誘ひて呉れた。それにもかゝらず、とけこめな

つた事は技術の差という盤があつたからである。僕は全くの要領技術から出発しなればならなかつた。一人だけの練習というものは奥につまらないものである。又、心算が又かつたのは当然の手ではなかつたが、レ

かして他人はとうでも使はずしててもやめる氣持はなかつた。それは身につきぬめは技術の差もあつたかも知れないが、それよりも上級生の視功さまでやめられなかつたのである。個人的な技術の未熟が、部全体の統一をばさみ、わずかな差で彼れた附屬教もこれが原因したのではなからうかと彼がとがめてレかた彼なかつた。彼々と仲間が出来るといふようになった。でもこの頃になると部生活と私生活との対立が現われ出した。といふのは前には試験前だからといつて無理に休めたり練習は、五人ぞろつてみると、一人ぬけると何んとなかぬがぬけたりような感じがするの五百も承知してさだからである。定期試験の時は、一、二週間前に休みにするが、ぼつり／＼とある試験など休まうとはいかない、一週間前にはそれが発表されるといつても毎日練習をつかれてくるから翌日の練習さへも不々々である、それに試験前みっちりしておかないと何となく落ち着かなくていけない。どういふわけでは練習前夜は練習を休みたい、しかしそれは部生活というものは練習がみられてしまふといふのならば、それはそれで仕方ないと思ふ。やはり学向が第一であるべきだ。そういう点の勉強を犯かしてまで練習に没頭する必要があらうか。

僕は新しい運動会技であるバスケット部に入つて、それだけの成績を獲つてゐることをほこりとしてゐる。又それが勉強への鼓舞に大いに役立っている。いわゆる他人への優越感であるらうか。それに私生活が現れたらなかつたし、小時間で最大の効果を上げるといふことも成立つてゐる。奥にふろこばしい事である。ところが、十二月の後期中間試験後僕はとう／＼感傷を引出し、熱を出してしまつた。こゝろ、二年の間、僕は練習出したこともなければ、寝込んだこともない。これは何を意味してゐるのだろうか。平生の勉強が尻りなかつたから無理したのではなかつたか、僕の本の中でいふ／＼と反省した。僕は練習してゐる時間を、読書にあつてゐる友達のことと考える。彼と僕はどのようなにやつて現われてくるだろうか。僕はどちらの方向に向かうべきか分らない。しかし、どちらにしても、やはり心算が勉強を語るに足りない。僕は出来る限り部生活にこゝろをよさう、そうすることによつて、部員も喜ぶからである。

B 先輩へ の反省

Bさん 甚だ大分押し迫って参りましたが、御変りも
なく御元気に御活躍の事と存じます。シーズン中は忙
がしくてゆっくり御手紙をお出しする暇がなく大変御
無沙汰致し、申し訳御座居ません。冬休みになりました
ので今日は大学籃球部の現状をお知らせ致します。

先日鈴木先生のお宅で開かれまして納会をもちまし
て今年度の全スケジュールを終了致しシーズンオフに入
りました。僕にとっては今年が最後のシーズンであつ
たのですが優勝の感激玄味が出来ませんでした。この
をがへすがへすも残念に思っています。と同時にリ
グ優勝のお知らせが出来ませんのを甚だ申し訳なく
思つて居ります。

この年の納会の際に正田君が「正田君には鈴木先生
がかりでにならなり時ベンチをやつてもらつたのです
が」優勝しようといふ気があつたんだか、なかつたんだ
かこれが一審問題だろうと思ふ。と言つたのですが、
確かにこれが一番重大な問題であると思ひます。実際
チームの一員として試合や練習をやりながら「これで一
体皆んな勝たうと思つてゐるのだらうか」と疑問に思

つた事がなきにしもあらずですが、誰でも試合をや
らには初めから買けるつもりでやる者はりなりで
よいか、結局チーム全体として一つにまとまつて優勝
しようといふ意欲に満ち溢れていなかつたと言ふので
せうか。結論としては、チームワークがまだまだ不十分
であつたといふ事存のせうか。これに僕が練習を休
んで見たといふ事も大きく勳きようしてゐると大りに
反省してゐるのですが。今年には御承知の通り猛烈な就
取難で或では絶体にバスケツトをやつてはいかんと言
はれりし皆んなを引張つて行かぬはなぬ位置にあり
乍ら、それどころか却つて多くのマイナスを与へてし
まつたといふ事は本当に申し訳なり事であると思つて
ります。然し幸にもリーグ戦の始まる前日に就私が決
まり、それからは大りに頑張つた積りですが、時にあ
らう、チーム全体としても足並が揃はぬまづ、第一週
に日体に負けてしまいました。僕自身としても暇り時
に、コンディショニングの調整に努めては来たのですが、レ
ィキにも皆んなに多くの迷惑を掛けてしまいました。就取
は今年に限らず来年も大変であると思はれますので、こ
の期向をどう案切つて行くかは来年の四年生の大きな
課題と致し、悩んであると思ひます。

今年で我々のチームも大学チームとして練習を開始

して以来三年経ったのですが、その由余り大きな活躍が認められて居ません。カ一年目は石島の得点力を活してローリングが及ぶスタコラ速攻でお茶を濁して来たのですが、去年は石島を痛気で失ひその代りにロコは認めてはなりののですが反町の入部によって石島の穴を埋めたのですが、石島と反町ではその持味が異なり、又長年やって来た石島と反町ではアレーの面でも、そのよでもしつくりいかなりのは当然であり、その事を考慮に入れなかったロコは、昨年の失敗があったように思はれます。そのような面でも今年は大分是正されて来るとはいますが、戦々のチームの如く伝統のロコチームに於ては余程の自覚と努力がなくては仲間をずかしめずであると思ひます。尤に角コニコ三年間ローリングと速攻に終始して来た訳ですが、速攻にあつては或程度の進歩が認められたと思ひますが、ローリングは赤リエ夫が加へられていなかつたといふ事は大りに反省されなければならぬ事だと思ひます。昨年ぞうたか一昨年ぞうたかの両チームのローリングを見てこれだと思つたのですが、我々のローリングには彼等のようには強さも鋭さもありません。その原因は①ボールを保持して居る者以外の者の動きが足りなかつた。②動きが単純である。③ボールの取り方バスの仕方が単純で、

をゴブオブペースがたりず命ちズイントピボットになり。④キーブカ並みにミートカが足りなかつた。⑤ドリブル並みにパスが下手である事。一寸考へた丈でも以上の点があると思ひますが、要するにゴブオブペースに脅かす手へ一寸の隙とも銜ける丈の判断力と技術を身に磨けなければ駄目だと思ひます。その為には試合にどうだったかといふ事よりも練習がどうだったかといふ事が反省されるべきだと思ひます。好いな或は練習をやつていて試合に勝つ等といふ事は望み得べき事では有りませんが、往々にしてこの誤謬に陥りがちであつたといふ事は残念な事であつた。

ゴブオブペースについては春以来ゾーンオブペースを唱へてみたのですが、学校のコートでは全然と違ってまよひ候も云ひ國民体育館のコートでは全然と違ってまよひ候役に立ちませんでした。ゴブオブペースのみについても考へればゾーンをやつたといふ事は全然無意味でありその時向でマニツクマンのディフェンスをクレーでもつける様に練習した方がよかつたのではなかりかと思ひます。ゴブオブペースのオブペースに或る程度役立つたといふ事は出来たかどうかと思ひます。この美を考慮に入れるとゾーンをやつた事が全然無駄であつたと思ひます。切角練習したのにゾーンが役に立たなかつたといふ事は

は、ゾーニの研究並びに練習に何か試行があつたといふ事であり大いに検討せねばならぬと思ひます。夏の合宿で定る練習やゾーニをやつてあつた。夏に終始一貫出来なかつた所に今リーゲの敗因があるのだと思ひます。これは鈴木先生の御計画通りに彼々の技師が向上したかつた所に策謀の齟齬が存するのであり、プレートヤーとして責任を痛感してりる次第ですが、来年よりはかくの如き失敗がなれば練習に綿密な計画の下に組織的に練習を進めて行ける様に研究していかなければならぬと思つて居ります。

大分長くなりました。が最後に評の運営について現状を知らせ致します。大学の運動部として如何にあるべきかといふ事は多くの議論があると思ひますが、今年度から坂口三将の方針により或程度部の運営の基盤が確立しました。一口に言ひますと民主的自覚の運営方法と申します。例へば練習の日時の決定は皆人々の都合のより時に決めて練習して居ります。その他何んでも決めるべき事があれば皆人々の総意に基き決定し各自の自覚によつて実行して居ります。しかし乍ら皆人々の意見が完全一致する事は困難であり決定に迅速を欠く様な場合がたまにしもあらずであり、又バスケットに對する為へるも各人各様でまじりがつきに

くりとのふと莫くあります。自分の事は自分で責任を持つて行動するといふ方向に進んでります。この場合も問題に於けるのは学問とスポーツの両立、師生と生徒との両立といふ事であり、これを如何に自分自身で割切つて考へて行くかといふ所にこの問題解決のキーポイントがあるのだと思ひます。自分で都合のよい理くつを付けて義務を遂行したりといふ事は最も許されねばならぬ事とせうが、上級生と下級生の間に於ても、各自の自覚に促されて居たのです。満足すべき状態であつたとは言ひ切れません。これは好リ劣固執——何れを言つていつたならは所持の好い御生徒が自然の内に出来るのでは有りてしようか。

次に各自の自由に任せて居る部分も非常にもりので、各人の自覚に基く責任の遂行が非常に重大な意味を持つてりるといふ事です。以上長々と評の現状を知らせ致しました。が御意見が御座りましたらお聞かせ下さい。Bさんが社会へ出られから早や0年、その前に思ひ及びぬ事が沢山あつた事と存じます。僕も未春はリよく社会へ出ますのでBさんの貴重なる御体験を聞せて頂きたいと思ひます。御意見と合せてお聞かせ願へれば幸甚に存じます。

ではお寒さの折故御体御大切に、御査討をお祈り致します。乱筆乱文お許し下され。

十二月二十八日

B様

堀 堅 次

—— 八月×日晴 ——

今日皆さんでこの向の練習と今度の練習とについて反省や感想等を話し合った時に、この前と比較して何となくまとまりがないとおっしゃいましたがそれはやっぱり個人々々の気持の持ち方でどうにでもなると思う。まず考

練習中は他の事は考えたりでパスをキッと云うもの

だけを考えて自分のあらゆる力を出す事。人の良いプレー等はよく見て真似をする事。まだまだ沢山あります。 S.O. —— 八月×日(雨)晴 ——

練習中は他の事は考えたりで

パスをキッと云うものだけを考えて自分のあらゆる力を出す事。人の良いプレー等はよく見て真似をする事。まだまだ沢山あります。 S.O. —— 八月×日(雨)晴 ——

—— 十月×日(雨)曇 ——

部に入りたてのしばらくの間何もかも介らねり事だらけでこれではどうなる事かと心細かったがお練習をかつさす出てくるうちに少しずつだんくわがる様になって来た。それもほんの少しだが、進歩するためにはまずお練習に出る事だ。 A.Y.



都女子高校秋季大会

永井 英 知子

今度こそは優勝と勢々こんで練習したが、横場さんのお済みと云うので何だか物足りない様な練習であり試合であつた。全日本高校として国体予選の時の様な部員一同のまとまりが見られなかつた寂だつた。

一回戦 対大森 十一月八日午後三時より九野高にて。

大森は弱いけれど決してなめてはいけない。試合までには大森を相手にしているつもりでなくてはならない。試合の始まる前に久保さんから御注意があつた。今日、横場コーチは大学の練習で遅れていらつしやつたので、それでは久保さんが代理でコーチをして下さつた。男部の高寺科の方が今度も前夜にいらつしやつて下さつた。フーストコートは12:2。セカンドコートは30:33で練習が終わりにして、セカンドコートは14:14で試合が始まる。そして全員の出場した。試合は15分10で大勝した。横場さんはいらつしやつたら、あつたが皆のびくと戦えなかつたと思ふ。

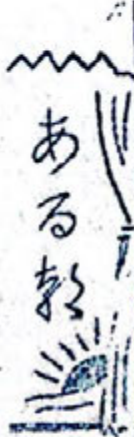
②二回戦 対豊山学院 十一月九日九時より八利高にて。

横場コーチが遅れていらつしやつたのでコートがなして試合を始めた。豊山学院は強つたよりも手強く、フーストコートは4:4の同点で終つた。フーストコートは途中まで横場さんと横場さんがいらつしやつた。横場さんと横場さんがいらつしやつると皆さん激然元気が出て、前半は4:8でリードして、後半は4:8で勝つた。

③三回戦 対作早 十一月九日午後一時より八洲高にて。

試合の始まる前、「負けそうは気がするわね」と話して、いやな予想があつた。試合の終つた時のあのいやな気分。いつまでもあの気分を忘れないでねんぼりましようと思つた。フーストコートは1:1。セカンドコートは7:7でリードされて、サードコートは前半の大半は7:7の差を3点の差でつめた。ラストコートは21:21と一点の差に追つた。後半は1:1でリードされた。後半は1:1と云う時、ゴールの差に追つたが最後の一本がきまらないように。

試合終了の笛がなつてしまつた。とろ／＼方々びでワ
ンゴールの差が狭くつてしまつた。この試合の敗因はフ
リースローの走らなかつたのが原因である。竹早は巧
判定めているのに私達は之が牛介レカ入つていないの
である。又フリールが多かつた。前半の中伊達さんが四



ある教

女子部高特科

葉 緑 美

ふと目が覚めるとカーテンのすき間から太陽がさし
こんでいる。大変／＼相好ましく思ひおふとんをけとば
し、スリッパをフン／＼かけて洗面所に登込む。夕への樹
とはうつつて変つた上天殿である。木立を勢よく出して
一面に緑意をばらまふ。夕べさうろにかけたクリツスが
又この上もぼくよくついてゐる。丸で頬さまみたいぞ
ある。アラジンを洗いたらパーマメントのかけすぢみだ
いになつた。時間がない。足太る秋。お食事をしてない
と三時同回復からお腹がタウ／＼云うし、後一切れト
ーストをと思つたところを機嫌でにらんで二階へ上
る。スカートをつまみ上げると昨日の雨に合つたまゝ、
ことごとくくひだがとれてゐる。さあアイロンとボード
をさしこむと停電ノイヤになつちやうな。オーパーで
カモフラージュをする季節でもないし……せめて出掛

本、後半に入つて上原さん松山さんが抜けずフリールを
なされたのは新かつた。

全日本を眼前にひかえ、又竹早に負けた株な事をくり
返さないように、練習に励みたい。

ける迄とお前の前の庶布田の下に敷いて坐つて、そら
う。ちり紙よハンカチーフよとポケットへつめこみ定
期はあるかと鞆の辺をたしかめ玄向へ……靴が光沢を
失ひおはれである。はくと少々冷い。頭熱足寒。短時
間体重減押しのスカートをはき、気になる髪を一寸直
す。い、やどうせ誰にも合わないしと思ひ風呂敷を脇
に抱へて駅へ突進する。今日の英語、何としてない。
当りませんように、返刺しませんが祈りながら道を
急ぐ。廊下は静まり返つてゐる。セーフ。着席しやれ
や靴一休み。だがかきくしおはれない。当つたら大変と
思ひ返文をまじりない。目が合つたら百年目お隣さん
を壁一の顔とし惜まを固く握りしめ顔を色く、事と
にちかつかさしてゐる。さう五分と家計したとたん
で……さんどうするすか下つやつつてごらんさいと言葉
はいかにと消極的だがとんでもない事。目鏡をかけた
先生の顔や肉の塊のように見える。やれく……とおか
こしと上げお隣り様からちのさ、やまを死んでさく。終

無題

小田 吉平

夏休みが終わつた九月にバスケット部に入部した。

元来スポーツは好きであるから、小学生の頃は陸上競技部に入つて野球をやつて来たが、陸上の方は足の力を中心とまきかなくばつて走れなくなり、野球は野球で、練習がでたので、ピンポンばかりやつて居た。その内助隊になつたが、経つて三ヶ月程で全休した。然し養生の意味で、今年一ヶ年は何もスポーツはやらなかつても居た。然し医者の方から責任をもつから、どうして好きで入つたわけではないし、だいたいはバスケットと云ふものには余りやつたことのないスポーツの内一つで、どうして入部したのであるかと考へると、僕自身不思議な原因がある。入部する當物は一体どの部に入ろうかとずい分迷つた。四月の練習が始つた時は、様々な部から練習が始つたが、前記の様な理由で全部断つたので、今更入るのもおかしな事だつた。然しその内、頭に浮んで来たのが、テニス

部の次の部に入った時の練習で。ノースとオーストリアと改めて行手にふかふかと膝を下ろして思小存命のみました。雨のあくる日は嫌ひである。

野球、バスケット、ピンポン、ホート、バレー等々つた。これ等の内、野球はやりたくなかつたし、テニス、ピンポンには非常に興味があつたが、コートに何限もあり、練習が余り多くて行跡に練習も出来ないこと考へてやめた。ホートは興味なく、バレーボールは、そう云うとバレー部の途中が来るかも知れないが、僕にはその子のスポーツの点に感心したので入りたくはなかつた。結局残つたのがバスケットだつた。入部した練習は非常に丁寧なものであつた。と云ふのは技術的には感心して居るが、その間は全然面白かつた。バスケットと云ふものは非常に面白いスポーツである。と云ふことを知つて居たからである。かつてあるが、実際に参加すると云ふことがよくわかつた。最初は、練習は非常に面白かつた。然しそれも今思へてみると、単に練習が面白かつたばかりが練習生活を楽しんで居た。練習が面白かつたようである。その時の練習生活は非常に面白かつた。と云ふことと練習生活が面白かつたからで

鳥が歌ほうと

春になって花が咲こうと

私は別に気にもとめなかった

けれどもあなたを恋しはじめ

てから

それが気になりました

恋人達がよく歩く小路を

一人で歩いて行っても

途中で雨が降り出しても

別に気にもとめなかった

けれどもあなたを恋しはじめ

めてから

それが気になりました



ある。お互に打ちつけては詰す事もなかつた、又単に路
をわすれずとも来りなかつた。その程度に現在夜術的
には前より一向に進歩したので、他人は僕に対して何
と思つてゐるが知らないが、僕自身としては、部生活
が非常に楽しくなつたのである。十月に試験が終ると、
試合のため方々へ行き、又十月の終りには長御へ修行
つ戻りしたことが、我々とお互ひにより一層親しくさ
せたのである。今考へてみると、あの時持ちあふの短気
で、よくも腹を立って退却しなかつたものだ、有難
くおわり。

夢として楽しんだ。やがて、すばらしい目の持主によ
 ったメダカが見えられ、岡安さん中満さんがさつき
 川の中に入り、メダカすくいが始まった。真鍮は網を
 して真白のハニカキ木の中に入れ、さあつと神かに
 ヒューとすくうのであるが、中々ハニカキの中に、
 入ってくれない。小西さんがしきりにおっこ、におり
 ますよ。メダカのさつきすきすきすきおっこ、おっこです
 と一人を場所を指令して居られた。従順な彼女達は、
 一々そちらへ、こちらへと移動しては、真鍮にメダカ
 すくいをして居られた。何だか、十位若くなつた様
 な気になり、切なかりし日さふと思ひ出しながら、私
 も必死に探した。永は氷の根に冷たかつた。

五時向きのどの様に遊してしまつたのか、もう三時にな
 つてしまつた。一台電車を遅らせて遊んでは来たが、
 たが、暗くなると、お察様方は危険というので、予定
 通り、三時五分、重たハ足互ひまブリながら帰途に
 いた。

車中だんだん暗くなつていく外を見ながら今日一日
 を振り返つてみた。十二時向きのあまりにも短い、
 しかし楽しかつた一日であつた。コーヒの概に入
 り、まを待つて来たメダカは、電車に酔うちしく、
 一匹二匹と死んでいった。そして電車は東京へと向
 だ。亦羽着六時四十八分、お袋着六時五十九分、お
 着七時三十分。

以上

プロファイル

堀堅という人

オ一印象すこく真
 面目で、オセン
 チそうで又恐ろし
 うな人物である、だ
 がこの推察は真実う
 てゐる、何故ならば

試合の時、反省会の時等い
 つでもと云つていゝ位お進
 歩をする日本人中の日本人
 である。

試合の時ばかりでなく、
 毎日の夜業にも遅れて、そ
 んな事ではお務めなんらだ
 めだめせられ程に睡眠時間左

中等科部誌

注意

- 一、人の行つてゐるものを、よ
 研究し休得する必要あり、
 一一年に望む。
- 一、七月中旬の練習以外、まと
 った人員で三十一も入れ込
 練習出来なかつた故所屬

要する人間、そんなにはか
い紙互してちしようがない
ありのまゝ、互害いたマけで
すよ。オセンチそうという
のは、必ずしも眞理ってい
ない様である。

これは害がなく、でも……？
でも念の爲説明してあこ
思いがちやのてあこちか
やっぱり害がないと、気が
がさっぱりしないので……
まホアアに見見したのは、
あれもしない一九五二年
日B日0時五十九分天野
の芝生の上である。私達に
は、二の方達が何をしたり
又何を考えているかつまり
……？君ちゃん、わか
す。ピコーズ私達は千里眼
同じ大学の部員達の中
も、塙堅だけは、別の位置にあ

られる様に感じる。あ腐坊
さんで、オセンチで、又少
し口の悪い塙堅にもどこか
に尊敬するだけの価値がし
んぞいれるらしく、私達は
いつも塙堅の念を忘れない
これはオセイがをばありま
せん、そんなてれんさそう
な顔なすうないで最後迄
続心を下さい。塙堅って一
見とても頑固で口数の少い
人の様に見えるすが奥は、
そんなにも頑固でもないし又
口数も少なく有りませんね
あしやべりで口の悪い事は
男の人の甲をば、誰にもあ
とうない様、しげし塙堅っ
てすぐ感情の高ぶる人じゃ
ないかと思えますが、せし
てそれをすぐ表面に表わす
人、怒っても巧らしくいつ

感心

てにチームワークをくずす
様、自分のユニティシヨ
自ラ外をつけて、練習する
とを望む。

一、練習の時、かならず全員参
ること。

一、練習の時、人の為にならぬ
初見させぬことが望ましい

二、三の注意事項を上げたが、
習中、試合中の態度に於いて、
一人一人反省してもらい、悪い
るは直し、はげんでもういた
とだ。それから、今日練習を目
一、二の人は、ミニートもよく
つたが、一般にあまり調子はよ
ながった様だが、これから、
注意し、しつかりやってみよう
又附添の前に、一っ何処かに
はも感っていないすっぱりした所が、忘
良い所だと思えます。

一、同じいそやんす、

AY HM IN JK YK SK

焦頭

第一 北 焦 頭

何か受けという部を呈する。だが、その部を呈するの
 際に書かれたい、でもその部を呈するやうな部を呈する
 には、たゞ「てくた」といふ。その部を呈するものも、たゞ
 簿籍かと思ひ、よゝなう。ことに其の中核は向つてまゝ
 次がです。

其は此の月には、部員が呈するものに入部し、其の
 して、其の特別選舉に受給せられて入部したわけ
 には、たゞ「てくた」といふ。その部を呈するものも、たゞ
 簿籍かと思ひ、よゝなう。ことに其の中核は向つてまゝ
 次がです。

つくづく、たゞ「てくた」といふ。その部を呈するの
 際に書かれたい、でもその部を呈するやうな部を呈する
 には、たゞ「てくた」といふ。その部を呈するものも、たゞ
 簿籍かと思ひ、よゝなう。ことに其の中核は向つてまゝ
 次がです。

最後に、焦頭補正会、高野、御前、部員が呈するもの
 一人であり、たゞ「てくた」といふ。その部を呈するの
 際に書かれたい、でもその部を呈するやうな部を呈する
 には、たゞ「てくた」といふ。その部を呈するものも、たゞ
 簿籍かと思ひ、よゝなう。ことに其の中核は向つてまゝ
 次がです。

生活

上 原 豊 三

原稿用紙五枚以内何日までにお書きなすこと、内容は何でもよいし、内容でも結構といふ命令が下つて久しぶりにはドキンとした。試験をさ束縛の立場に立たされた様な気がして容易なるおこたは思つた。お手に紙を取らなすにペンを握り、筆跡が止所に出来るものと思はれた。と今更夜又五時た、な事をいつても始らなす。

せつかくバスケットの運動にのせるべく先考であるがうには自今も格好は一人ひとりでバスケットに動いたことか覚えてあり。その思つて書きなした。けれどバスケットに動するに至つて附随一役も書けばよいが内が無く方々をこつた。加減のクソおには書いたことか書いたことかすてにさかつかせられてしまつてゐる。ここに新しく流行の先端でもかつてと………野地を走りたことかだつた。そのうらなると斯ういふ考へも落げたり。やめうかひ面白いのが書きたり、これを書きつくり考へただけで駄目、これ結局とどのつまりはく……と固くなつて坐すなど

といふ題目になつてしまつた。論議者の望もよるなりなどとは縁士ゆありもなかりきうである。

生活とは何意味するものか？それには色々な理由がある。我々は此のまに生をうけた以上、先づ自己の生活主健をにするべきである。病く正しく晴るく生活しなすればなるなり。しかる後一載が円満に生活出するものである。一歳産の生活が健全であればその群々の町は自ら正気なものとみなすにちがひない。まして貴今の世にせしがらみの中にあつて我々は自今の周囲に心して生活するべきであると思ふ。おは朝早く目のさめた時、シ………した時、外主想像したがる。その中でバスケットをする………何か………大都会の呼吸が感じられる。夜が来る。そしてまだ静かにいさつてゐるようには見えぬ。夜明けに、もう微かに生きた物の生活が感じられるのだといふ様な感じがある。そうしてゐるうちに先づの微かな呼吸が段々数多く集つては………と身に感じる活動の音と………をひびいてくる。花の群も一台通つたり………何か………遠くでゴ………と………の音もやはず物の動く音に………なり。人間の生活の音も………に………の音も……。自分も今日一日どうゆうふうか……。あれも………二………バスケットボールの練習も………

主將提督によつて入場式を終了した。この前におの
ツアを見た時侯は今日時提督に勝つてを前にカッパ
を打ち送ると信く心の中であつた。試合に肉する
打ち合せもすみ、作戦も終りベニヤ、兵りもつく
り試合由緒も特つた。南朝三會館の官が踊ると同時に
スタートトーンバリの五人アワード江流隊の島旗、
中少大御前がユニフォームに着て立向内を遊覧の隊
を引いた。この時提督提督はあつた。この時提督は
附島旗、その試合由緒も終り、試合も終つた。
試合由緒、この試合は、この試合は、この試合は、
が高々とあり、この試合は、この試合は、この試合は、
せつとした。今日提督提督の、この試合は、この試合は、
に上まつた。大御前、この試合は、この試合は、この試合は、
ちに上まつた。大御前、この試合は、この試合は、この試合は、
アは取つたが相手はカッパと成つて敵ボールと成つた。
しかし、この試合は、この試合は、この試合は、この試合は、
のうの攻めに、この試合は、この試合は、この試合は、この試合は、
取れぬと、この試合は、この試合は、この試合は、この試合は、
リード。この試合は、この試合は、この試合は、この試合は、
ルに毛ト入る。この試合は、この試合は、この試合は、この試合は、
増え加え、この試合は、この試合は、この試合は、この試合は、
十八対附島、この試合は、この試合は、この試合は、この試合は、

取り戻した。カニター増々將副。取戻し海柳谷の
治理すばらしくこのカニター提督提督廿一実附島四員
結局前半せ九針八とせ一実のリード。この由少レメン
バトを落し、この試合は、この試合は、この試合は、この試合は、
不領と成れず又ボール下のボロの、この試合は、この試合は、
速攻と、この試合は、この試合は、この試合は、この試合は、
まて、この試合は、この試合は、この試合は、この試合は、
この試合は、この試合は、この試合は、この試合は、
三、この試合は、この試合は、この試合は、この試合は、
もつて勝ち、この試合は、この試合は、この試合は、この試合は、
南朝三、この試合は、この試合は、この試合は、この試合は、
うと、この試合は、この試合は、この試合は、この試合は、
い、この試合は、この試合は、この試合は、この試合は、
試合は、この試合は、この試合は、この試合は、
取れぬと、この試合は、この試合は、この試合は、この試合は、
これより大時、この試合は、この試合は、この試合は、この試合は、
一、この試合は、この試合は、この試合は、この試合は、
も、この試合は、この試合は、この試合は、この試合は、

柳谷記

高崎遠征記

第一 武木 樹

九月二十七日

今日は高崎遠征隊の出発の日。バスに乗って高崎へ向かう。高崎駅で下車すると、バスは高崎駅前で停車し、乗客が降りる。バスは再び走り出す。高崎駅前のバス停留所には、多くの乗客が待っている。バスは高崎駅前で停車し、乗客が降りる。バスは再び走り出す。高崎駅前のバス停留所には、多くの乗客が待っている。

バスに乗って高崎へ向かう。高崎駅で下車すると、バスは高崎駅前で停車し、乗客が降りる。バスは再び走り出す。高崎駅前のバス停留所には、多くの乗客が待っている。バスは高崎駅前で停車し、乗客が降りる。バスは再び走り出す。高崎駅前のバス停留所には、多くの乗客が待っている。

バスに乗って高崎へ向かう。高崎駅で下車すると、バスは高崎駅前で停車し、乗客が降りる。バスは再び走り出す。高崎駅前のバス停留所には、多くの乗客が待っている。バスは高崎駅前で停車し、乗客が降りる。バスは再び走り出す。高崎駅前のバス停留所には、多くの乗客が待っている。

バスに乗って高崎へ向かう。高崎駅で下車すると、バスは高崎駅前で停車し、乗客が降りる。バスは再び走り出す。高崎駅前のバス停留所には、多くの乗客が待っている。バスは高崎駅前で停車し、乗客が降りる。バスは再び走り出す。高崎駅前のバス停留所には、多くの乗客が待っている。

バスに乗って高崎へ向かう。高崎駅で下車すると、バスは高崎駅前で停車し、乗客が降りる。バスは再び走り出す。高崎駅前のバス停留所には、多くの乗客が待っている。バスは高崎駅前で停車し、乗客が降りる。バスは再び走り出す。高崎駅前のバス停留所には、多くの乗客が待っている。

バスに乗って高崎へ向かう。高崎駅で下車すると、バスは高崎駅前で停車し、乗客が降りる。バスは再び走り出す。高崎駅前のバス停留所には、多くの乗客が待っている。バスは高崎駅前で停車し、乗客が降りる。バスは再び走り出す。高崎駅前のバス停留所には、多くの乗客が待っている。

試合後ゆずが二台の自動車に分乗り、観音山に行つた車に乗って山道を登つていくのは気持ち良かった。像の中を上かつての眺めは大変きれいであつた。その後すぐそばの、大塚に采て居られる鶴爪さんのお宅に休ませて頂き、その上晝食を御馳走に付、た、帰る前に観音様を背景にして写真を取つた。帰途バスの停留所に降りる途中遊園地で猿の電車を見つけたと誰やら云つた。云い出し遊園地に乗つた。のろり／＼走る電車の上で良い気持ちに付た。その日、今思うと大層おもしろい。その上、小づな電気自動車に忘のろ／＼と云つた。着る居たから愉快であつた。前橋に寄らぬ坂口さんと別れ、及町家特製のまんぢうをのみやげに楽しんで高崎の所まで来た。

以上

。▽△△▽△△▽△△▽△△▽△△▽△△▽△△▽△△

本年回顧 (その三)

本年事件ナソバー・ワンは、思うに、サ子部高等科籃球部連続東京都二位である。これ迄は可成りのレヴェルにあつたらしいが、あんまり強くなかつたこの部が、文字通り長年の雌伏、そしてその向の盛練習の結果か、少くとも女子部の諸姉はその様におぼしめし

の争ふしよう、如何なる風の吹き廻しか。全日本、団体両予選に再度二位の位置を確保したことは偉にして大なることである。

池の川を延長戦を敢り、そしてその余勢をまつて斯界の名門お茶の水を退けるに到つては、全くこの躍進に目を見開かざるをえなかつた。

どうしてこの様な成績を得たのかと疑問を拵つたのは、あながち僕ばかりではなからう。この様な自い成績を得たのは思うに、彼女等の一男子高等科とは較べようもない、お練習熱心がしからしめられたからであらう。そして彼女等の表面的な団結と、堰コーナーの指導宜しきを得たものゝありませう。だがフアンがメンタルな技術、又殊にシユートに於ては決してあ上手とは云えず、寧ろ他の女子高校と比べて見劣りする位であるのよ。不思議なものです。

又、長く秋大会に於て竹早に敗れたのは残念であつた。併し連続二位で多少か天狗になつた感あり、練習に於ても（見た範圍に於ては）何と云うか有介達の母手、自ら酔つたかの如く、そして例の「パンバ」リマシヨワは虚飾的な調々さをも混りました。更に勝負に對する女性的な、しつ／＼こいばガリの執着は全日本綜合サ子予選に於て甚だしく増加したのでした。

人物鑑定

ナンバー1の男

いよいよ二十七年も終りに近づき三年諸兄も卒業する事となり、こので男サ三年生に就いて我々の感得た事を一人一人について述べてみたいと思ふが、空習院女子部の現在の三年生は皆に感情を動かす心の少ない人間が多少存在するので後の復讐を恐れて一言だけにしておく。三年生諸君敢て因らうか、(身長順) 志んぞ、コトとして好きでパンシコ途中で止めてあげよう、練習を見て下さった様ケンから。

よく人々は彼を陰険と言ふがどうして、少しおっちょこしいすると彼の気守がすぐ味のあるものごとく堅い竹が戻る様だが他の大学生と違い話していてもモウにぐるしてが、又一面パンシコを時代の波に乗って、アブレ青年彼の味っている、アスにはパンシコの當面であることに注意。

佐藤氏

彼の一言で、彼は彼の名前が気に入った、この十リはちマカヒコを、彼と語らうと陰気な事、いけず、とんで、高い落格より、白の現在の彼は、大学の受験勉強に、いそが

しく身長も達びす、たとの事、K大学に入る目的は、サ学生に、まてたい、感、の、表

高橋氏

日本一の空校を目標に、進んで、いる男子部、サ学生、彼の顔の天然パーマ、は、いかにせん、男性に、非ず、彼は、人間が、真面目、そうだが、我々の、よく、する、……の、性、を、好む、人、羽、佐、田、氏、の、妹、さん、に、……、という、話、も、聞、いた、が、さん、ら、う、ま、で、も、可、い、ま、あ、る。

栗氏

あるサ学生、何處とも、無く、魅力、を、感じ、る、人、と、彼は、完全、する、バスケット、タイプ、三年生、の中、で、一番、下、級、生、内、に、な、り、ま、り、て、い、る、様、だ、が、彼は、少、し、痴、ケン、じ、の、パンシコ、気、好、將、来、彼の、事、も、り、日、を、行、っ、て、い、る、サ、性、よ、の、英、に、注、意。

小西氏

川村のサの、が、言う、に、口、ん、て、か、わ、い、ら、しい、ん、で、い、う、つ、て、成、程、彼の、顔、中、に、付、ま、だ、小、仮、っ、ぽ、い、所、が、あ、る、い、か、と、その、一、面、彼の、性、質、を、表、し、た、が、含、ま、れ、て、い、る、目、下、成、績、差、教、に、二、年、中、と、聞、く、

久保氏

色白で、性、情、温、純、。彼は、誰、にも、好、か、れ、る、主、將、と、い、て、この、二、年、内、人、一、佐、力、い、て、下、つ、た、少、い、お、だ、て、と、赤、く、す、る、所、け、何、と、す、く、道、い、が、舟、で、る、。

男子部をマッテケ定に断断ためかき出して性的な人。
大久保氏

が今の三年中で一番いい人。真面目一途なリビに
我々はよく彼に文句をいゆゆに良い思い出さな
らう。ガリゴのようる人。Eに心の中では相当の
まで考えてゐるその証拠に彼と似せると噂は有名

小田氏
小田氏とてを言ひましようか。息子十八はまた元ハ
と身長はたしか最を少さい時に巨人にすうの
を心配してゐたら神経質となり身長がす。バリー
かすくすしたとカーガしすす少すす保てよくす
チコとマホーリとして物らつて下す。人々良
事はこの上まうい

本太氏
身体が都合上ブレいけあすりりガッた。彼彼のシ
ユートは学問でも名物の一つ。まてこり聖から役
げ出すシユートの舞やかナ彼に言やせれは聖よりニ
ハシユートを見てちよう下い。部中唯一人眼鏡をか
けてゐる。文学青年うー人

ある日の編集室

ゴ。タ。ー。君のホリボリへオセンベイ
ド。ア。ネ。ツ。シ。の原紙切りへ辨か尺と思つたらあ口の甲
一杯ですものね。
シ。ノ。ヤ。ニ。の真剣な顔へハヤはや修正済のお得意様
生活君の嬉しそうなかりバニ姿

笑ひ記者

○早い話が
専ら使ひが甚いなんて言ふけれど俺は無駄の
物も何時した。

女身したじゃありませんか。あそこにある焚火の
去年買ったつから未だ一べんも使はなけりやだ
いの。

○腹し難し
容納のころ、夕のスープの中わちボクンが出て来た
だ。

女給よろこんで好らすみません。階分探しました
ゆ。

尊敬する人々

桜井 徹

先々吾マツリピンとの試合の感想を書いた時私は時取する二人の日本人として畑全日本選手とマネーラーの名を挙げた。先ずその理由から書いて見たいと思う。

畑氏が全日本のコーチに選ばれる事から見ても前氏が新界片で一流のコーチである事に何人も否定し難いだろう。彼が武蔵やお茶の水付屋で戦えて居る悪いベースのバスケットを評して日本のバスケットの正しい発達を導くせよとか佳しいフットワークを改めるとか云つて非難する人も居る。併しこれは両氏の選手が常に身体的に思われて居ないためならざるを得ない。つたといふのが正しい様に思われる。毎年インターハイや団体には予選チーム又は一チームごつれで行くが尤も今年の団体は我が女子部によつてマストツアされたいは例としても偉とすべきものである。彼が時々新聞に載せるバスケットの批評は私にとつて一新感を得て安心して読めるが然れども、彼がマツリピンを主眼として訪められたら今でも片主眼でマツリピンを主眼として訪れたいと思つて居る事は疑いなくない。コーチとして介

入へ行く時はどうするのだからといふ、か飯を蒸ませる。面倒くさいのさとか、あれが産案なのだとか不潔だとか腹口を叩く人も居るが私に前普通の人には異議が出来る事ではない。他人が何と云おうと私が畑公を時取する裁判に交りはない。

明治のマネーラー君君について知つて居られる方は少いと思う。彼と結した事は少しもないが私に時々の誤り人の様に思われる。二月にマツリピンが来た時二年生でありながら立教の小林君と共に全関東のマネーラーに選ばれた事は彼の文筆の然らしむる所であらう。昨年の全日本の予選の時彼がマネーラーをした事があつた。少しのミスはあつたが先ず大過なく努めた。普通の人ならやれ、と云つた所であるが彼は彼の試合に於て不先生が審判審査をやつて居られたのに如何に道徳に先生の所へ行つて審査を見ても自分のレフレエリーを熱心に研習して居た。小さな事であるが謙虚さや誠実さと思つて居る。小柄でニックネームはブクキヤンといふらしい。先日全日本の予選では明大のハラスのユニホームを着て出場。バスを廻して居たが矢張り上手くはない。併し何とも云えぬほどえましのものを取じた。此の様に人の好い皮ではあるが先年のS氏の氏へせう云つてはいけなないかも知れないが

いれゆる病気のボスによつて可愛がられる所りスボ
イルされる危険もないとは云えない。彼のためそうな
らない事を切に願う次第である。

大分二人の事を手前取つたボスレーヤーについてい
うならばコートマナーが立派で眞面目な人を尊敬して
い。一般に立派な或る道手は悪友が良く風格があり
流石にといつたものも幾んどさせる。特に各知人につ
いていうならば度々の止へる明治の終不因能手を推し
たい。前者の場合何処がそんなに良いのかと聞かれる
とちよつと困るが彼等の良い事は確りである。だから
一昨年の入替戦が了つた時水島と今年は瀬古と互に奮
きた。さうさう出来たのである。彼の卒業を前に
して明治の希望の一部に選抜いた事は明治が赤り好き
でないゆゑ及び先判の異名のため心からおめでとう
を云いたい。次に云いにくい事であり失礼に亘る点か
あるかも知れないが部内に於ける尊敬する人々につ
いて少し述べたいと思う。我々部には眞面目と意氣さ
で部を創立された高尾さんを始め多くの尊敬すべき先
輩後輩が居られる。正田さんと阪谷——この二人が如
何に部の事を思い部のために尽されたかは已に全種球
評定即存知の事と思ふため改めて云わない。唯去年平
東後二人とも地方勤務となる旅な場合へ正田さんは

林に蒞定の種球部がどうなるかという点を思うと甚
だ心細いものがある。二人を置いて種球部全体の事を
考ふる程な人が出て来ねばならないと思う。昨年高野
科を卒業した大沢君を私は忘れず、早く出来な。一昨
年坂口石島等が卒業し康源水島にあつた部を再建し折
しい部員を入れ、ともすれば北水勝ちの部員の数増を
引算めて耐震戦に臨んだ事は実に立派だと思ふ。今日
高野科の種球部がよとまつた形をして居るのは大沢君
がその種を講じたものと思つて居る。それに即連して
であるが今の高野科チーム建設に功績した人として大
久保明佐田両君を冠することは出来ない。色々欠点が
ありフラク／＼した点もなかつたとは申せぬが、始め
から部にあつて大保主将を助けた高野科種球部の支柱と
なつて首を引張つて行つた力を私は大きく評価して居
る。二人とも途中で体をこわしたから休んで今年
の耐震戦には務つて出席し得た。二人にとつてこれ
程良い思い出はないであらう。

我々部の今年の十六ニュースのトツスは何といつても
女子高専科が部の二つの大会で二位になつた事へその
中には長年部下に君臨した部員の水附原を致つた立派
が含まれて居るであらう。私は女子部の支持を強く
知らぬが今の高三の五人の人達が決して始めからバ

人物鑑定 (続)

サムバークの男

秋山ケン

女性化露。ハ外国婦人V特徴としては温の入つていないオムスビ。

伊達ケン

男子部評判の純心娘。それ故に物も……無理もないことです。

山田ケン

〇〇ケンの云うに勝のハネがあるそうなのをこゝ私は考へた。將來アラダンの入道師でもやつて生計を立て、いつたら三年経てば生徒として行く事でしょう。やつてみませんか。

楠崎ケン

男子部が最も惚れている女性。この方も選科が特別にあると云うがやはりアラダンの行きか。

岡守ケン

まとなししいとの評判だけにその心の内部に秘められた事柄の恐しさよ。女性はおとなしい程、腹での行動はますますまじい故に。

船田ケン

麻けた人物だぞうだが麻けた過ぎているかもしれぬ。

スケルトンが上手であつたとは思われない。その意味での人達が動くと進行けたのは男力の賜物と思ひ深く敬意を表して居る次第である。

扱ていよく私は後三用で件迄去らねばならぬ運命に置かれて居る。実社会の苦勞は學生時代のそれとはとても比較にならないと聞かされて居るが今二に夢げ又夢げなかつた多くの尊敬する人々の良い臭を嗅んで実社会を生き抜き、又出来れば及ばずながら却の鼻に盡したと思ふ。

終

それだけに男子部の情報を片手に握りしめて居る。男子部諸君も彼女の行動に疑を付け給え。

中津ケン

世話女房タイプ、失敗すると古く出さくせがある。買物やお上手のようではあるが、つり銭やら買つたものを忘れられてしまう様。

上原ケン

こわいオバカヤン。なにしろ強気だからね。男性を尻にひかればその得意込み。それだけにリードマンとして欠くべからざる人物。

まはり

卒業生に寄せて

A.M

名前の上ですべて一番背の上でまます一番背の高い
と云うことは美しい決まりです。混んだ電車の中でおち
びさんだと存在が認められぬのが苦痛の上に出て
いかば手お大丈夫、しかし又その馬力だにまげ、火
事の思物などしてゐると誰かにすぐ見つけられて
まうでもこの人はサッとしていよう。
秋のお山の旅に紅葉して下はいい降ってささきまてを
前のごとくにもう少しみの、一筆はかりでひくゆき
お作りになつては？

Y.U

歩くたびに地響がしるさうな人てこれは一寸冗談で
せかくれんほほとした場合ウエガかく山らしき様は
木は殆んどないでしよう、併し私達がウエのうしろに
かくゆられるけど又学校の帰りほど風がすよく寒い
時にはウエのうしろから行けばせを引かずにすむ。
お名前が、ジョン由來はよく知らないがある画で秋山の
人と正及針。
彫刻の上で何かささきさるものさうく島の下根さよく
音つていようね。

H.O

オ一印象、ツキ、て感いぬ。切でおとローく親え行
少せ小説の主人公みたいで、まこゆは本当でなく、い
ら、まのおちやめさんかき知れぬ、新年号の雑誌の
口説のモデルにでまじつたら、意云の病々人間なり。
余さす。

M

丈夫そうて実外病氣に弱いのね、比ぶうが強さうて弱
そうならバスケットにおく人間とわつてあつたら見た
い、の犬の25見たいに実外が一ちりーている所もある。
けいど……ぬ。
物事を伊達に考えたりいけません。

K.N

ま下子術セーラーさんか着るより可愛いのエプッ
ンかけて胸にハンクナを下げたバスケットでも持ッ
ている方が似あうね、でも考え付かない、すも人らし
いおれ誰かが親一みやすい人間。
心の中にも道がたい月がうかむ元。

K.N

足神の電通した……よ、お仲様、木っ子ひんで気さつ
とそい、でもお家にかえつては甘えていらっや
るかも知れないけど、見るからにキヤブアテンらーいと

云う感じ。トンちゃんてどうしてついたの？Uさんの様ではないのに。

樹の木は何に使われるか即存じですか？洋風の美しい装飾品ですよ。

R.Y. |

ヤンちゃんは何から来たのかよく知らないけど、ヤンヤン草つて感じがします。対面したのでバスケットなんかちつとも結びつかない。子来一みたひにか弱いのかなので悲しい事等は人一倍くよくよするおかも知れない、だから細くなるのよ。もう少し誰かさんへ苦しんでいる乙女Vに對して考えて呉れたらなあ、そしてら太くなりますよ。太くならなくても結構ですつてつまあやう云わずに。

お山の中に取られられた田んぼおたりに淋しそうハナンテウソタヨジビロケV

S.W. |

名前大剛くと大人しそう。併し反対ヨ、案外小さいくせによく活動なさいますね。テンビに入れ、ヤキすぎたこびたクリスマスケーキの様なお顔。八担しデコレーションで美しいと云うのはありません。読書家に空想家、案外はつきりした御意見を掲げていらつしやるので感心したワ。

日にもまけない……三つの加せして田んぼの様にござらずに遊んで下さい。

ZK. AY. HM. JK. S.O. J.N.

本年回顧 (その三)

次に「高岸科一年間公式戦出場停止」問題に於て。筆球部にあつて常に先端をゆく高岸科がへ良い味でV、筆球部始つて以来、吾等学院運動部初めてかも知れない大ミステークを演じてしまつたのである。定に角これは高岸科筆球部々員のスケジュールに對する一寸した無神経がなせしめたものであらう。事實誰も気がつかないで、やつと試合翌日へと云うのは、既に我々のテイームは不戦敗になつていたのである。の朝になつて気が付いたのであつた。

事の序に、筆球部諸兄等に御忠告申上げる。併し賢明なる諸兄等はこの様なことは無いと思つたが、人任せにしないで、各自等に又ケヨエールに受玉付け、且つ代表者会議などでは在命されんことを。

かゝる愚行を決して決して、繰り返さぬ様に、重ねて注意致す次第である。

バスケットボール部

編 歴 次

部報の編集係の公及君からオ五号の原稿をたのま
れたので、おれやこれやと書く事を考へたが結局何ん
にも書くことがないので——といふよりは余り書きた
い事が多すぎるので、さう書くといふ段になると何
と書いてよいのやら書く事がなくなつてしまふ。とい
ふようなオオオ頭に残んだ事を次々に書き並べる事
にする。

編仁会雑誌百七十四号を読んだら「籠球部報」男
子高等科といふ所に「我々の部も生誕約何年になる
か私はおらぬが……」と。その文の最後を見たら「記
と書いてあつた。キヤブテニからして創立何年なるか
を知らないようでは他の人は推して知るべし。どこで
我が部の創立の経緯を語るでしょう。精しくは部報の
創刊号を見て呉れればわかるが、ともかく我が部の草
介は少年寮時代命和十四、五年頃の頃であり、当時の
舎監の奥田先生を中心とした同好の人達のクラブがそ
れである。当時の事は僕も部報に書いてある事僅しか
知らない。正式に編仁会の部として誕生したのは終戦

の翌年昭和二十一年の四月二十九日高見先輩が当時の
（旧制）高等科学生主任の櫻井先生に籠球部設立の届
けを出された時に始まつている。今月六年と八ヶ月と
いう訳だ。どの後卓球部とか排球部とかが出来たがと
れ等とは創立迄の状況が全く異つてゐる。それらは新
入生の同好の人達によつて設立されたいはバブアの
部であり、我々の籠球部は正式に部になつたのは終戦
後ではあるけれどもそれ以前に荷見さんを始めとして
諸先輩が黙々として努力されその結果に仁会の正式
部として認められたといふ事である。荷見先輩の籠
部を産み出される迄の並々ならぬ努力を考へると、
我々もつと——部の発展に努力し、より充実した
部にせねばならないし、又一人々々が有意義な部生
を送らねばならないといふ事を痛感する。
さて昔の事を色々と思ひ出し乍ら考へてみると全く
なつかしい。今も昔も同様に困つてゐる事は部費が
いといふ事である。部になつてから最初に編仁会か
もちつた部費は僅かに八十円。現在の高等科一万円、
大学の四万円と比べるとまさに隔世の感がある。確
その八十円の部費をポンプを一つ買ったと記憶して
る。それでは自轉車の空気をポンプに空気を入れ

それを針金を曲げた組通しで苦心慘愴してボールを作
つたもんだ。ボールが破れると靴屋から糸と針を借り
て来て自分通る繕つた。又その頃は別寮八今の高峯科
の教室Vの二階に部屋があり、そこを番休みに古雑誌
を所持つて袋張りをして評者を探いだ事もあつた。青
山の女子部の喧嘩の体音館を練習していた頃一足金八
十円也の靴が——その頃は勿論バスケットシューズ等
はあつていなかった——一日穴があき、さうだから
あつて又靴を買つて呉靴とも云へないし、仕方がな
い。又一度運く迄かゝつてその靴を修復して翌日又練習
に出かけた。併し練習が始まつたものゝ三十分を経た
ない内に昨日おれ程苦心して直した靴が又もや大破。
この旅を幸甚運日繰返して才一回の附属隊に臨んだの
であつた。練習しておなかはずいとも帰りに寄るソバ
ヤは無し。こんな境から比取つていゝはめぐまれ過ぎる
程めぐまれしている。よくどこかなに遊してバスケット
がいやにならずに続けに来たものだと言ふら悪心して
いる次第。卒業が尙近になつたせいかなどうも最近懐古
趣味になつてつまらない事を書いて居るだらう。

あるのだらうか。バスケットよりももつと有意味な
事があるのではなからうか。兼と時々考之る。併し
その答は常に「バスケットは止められぬ」といふ所
に到達する。時にはバスケットを止めやうと思ふ事と
再三ならずあつた。併し結局は止められぬ。僕にと
つてはバスケットは永久の恋人おいたいなものらしい。
そ収程好きなんだ。

或詩集にこんな詩があつた。
われ即身を愛す
愛したるが故に愛するなり
行を求めぬ
ありとある「われ」を挙げて即身に捧ぐ
捧ぐるはあのがじとなる軟化なれば
求むる物とはなし

「運轉師の生活は何が得る所がある」と人は云ふ。
併し運轉師は何か得たいが為にはやるべきでない。好
まざる——、やりたくて——、仕方がないからやるの
だらうと僕は思ふ。バスケットをやり始めに最初から
好きだつたかといふと決してさうではないらしい。何
か一つ事に熱中する、打之めるといふ所に喜びを見出
していらんだらう。

「バスケットを禁する事」それは色々な段階に於て

様々な楽しみ方があろう。去人のバスケットを見

ていると奥につまらなそうである。しかし彼等はそれ

に結構楽しんでいるのである。普通の人が見たら凡そ

一まらなそうな練習をしていても結構我々はバスケッ

トを楽しむ。比の向の女子部の試合を見ていると、

美しいどころか悲壯な感じを感ずいた。しかし彼等は

おれで彼等なりに楽しんでいられるのかもしれない。試

合に勝つ事、これは負けるより遙かに楽しい。しかし

例へば負けても気持のよい負け方があろう。輔仁会

連戦のラクビー部戦に、ラガーはラクビーそのものを

楽しんでいるのであつて勝敗はオニオニのものである。唯金

門を攻めず前に押し込みがあのうと湧いてくる。勝つても

負けとも全力を尽くしさえすれば悔いはないしと、

全く同意だ。

さうして思はず知らずつまらない事が長くなつて真

に申し訳ない。もう一寸、

如何にしてより多く楽しむかという事を、我々一人

々々が考へるべきだ。如何にしてより多く楽しむかとい

中等科エコーチン

正田 忠二

四月に中等科をコーチンすることになつてから無事に

一シーズンを終えホツとした気分を中等科籃球部の今

シーズンとふりかへつて見た。五月の憲法大会には幸

い新宿区を優勝し代表となる事が出来たが技術的に

は未だ非常に未熟なものであつた。唯試合の際には、

FULLIOWとLORSE BALS だに注意し

てやちせただけで優勝出来たのは相手が弱かつたに基

づなかつた。この大会が終つてから九月の所属戦を目

標に新しいスケジュールを練習を開始。へ練習は週三

回、憲法大会を好成績をおさめたことが今一度も勝

つたことになつたのだが例を練習を見ていても強く感じら

れた。

練習は走力をつけることが重要ではじめの内はPAS

S DRIbble等の基礎技術を相当に練習した。

夏休みの練習も別に故障もなくすみ、二学期がはじま

つてから最後の一ヶ月には週四回へん全部員が必ず集つ

ての負担よい練習が続いた。

ZONE、DEFENCE 遠攻が練習の主体となり

この二つのことを甲乙に所属にあたることに決めてい

る。(一九五二年一月一日)

いた。所属競技に二回行つた練習ゲーム及び高卒料との合同練習を相当自信をつけて所属隊には莫大な気持そのまゝことが出来た。

試合では何も心配することなく大勝してしまつた。体的にも技術的にも教段と学院の方が上であつたが練習中重負を扱いた真が試合中にNICE・PLAYとして現われることが多かつたのは嬉しかった。遠攻はほとんど出たしZONEもよく動いた。都員一回がはじめて行つたBIG・GAMEの重負を扱いたした後カヤアをがこんで喜び合つていた姿は未だ忘れられな

い。
今勝かに今年一年のコーキをふりかへつて最も困つた真は今の中卒料の学生の気合といふものが中につかひなかつたことであつた様だ。しかしそれも練習の回をかさねるにつれて少しづつ、介つて来て目標の所属隊の時にはコーキ自身も10も年が違ふ子供等と同じ気合で試合にのまむことが出来た。

最後に中等部員諸君が私と共に過した郡生活の中が何ものがさ得て更に技術的に人間的にも、成長されることを祈りする次第です。

四十七年制高校

秋季大会は早や吹きはめらつすや寒い風の元

十月十一日より十九日まで茨城県の両コートに於て行はれた、春季大会において三年生を含む我々は初マテ部立を破りオ三位にくだんだ、然し三年も部をエつた今、全く自信の持てない我々ではあつたが、試合前どうしても部立に次は勝とうと誓ひ相つた。

さて試合が始まつて見ると、経練習の甲斐あつて、遠攻遠攻、特に遠攻に於て意外は強みを、発陣し、中には大差で破れた成績には23、20と敗れたりとはい、よくくい下り、成績とも善戦し、我々の最大の念願であつた、必勝部立も各自各隊の活躍、よつて成しげられたことは、吾々にとつてはむしろ意外な程の事であつた、たゞ一つ遺憾に思うところは、対武蔵、試合に於て全くノイトなくして、破すところなく敗れたことである。

然しなすら、この敗れ成績によつて今まで目先の一踏であつた、高卒料部員諸君へ或る程度自信を与え、起をうなはれた事はこの大会の最大の収穫であつた。

大学

○高崎逕征

九 院

引高崎高林

九廿八 本院 67
28 39 1
26 36 62
高崎 2/2

○秋季リト久戦

十五 本院 56
30 26 1
24 31 55
日体大

十七 本院 67
5 21 41 1
1 1 38 24 68
日体大

十八 本院 51
27 24 1
23 40 63
日体大

廿一 本院 66
37 29 1
29 21 50
学芸大

廿二 本院 55
29 23 1
21 22 43
学芸大

廿八 本院 67
40 27 1
27 12 39
横国大

卅 本院 64
36 28 1
26 20 46
横国大

十四 本院 47
24 23 1
23 26 49
青山学院

十五 本院 49
25 34 1
28 26 54
青山学院

十六 本院 56
35 21 1
39 32 71
青山学院

十一 本院 57
33 24 1
25 27 52
明治学院

十三 本院 58
44 14 1
35 23 64
明治学院

十四 本院 58
28 30 1
25 19 44
明治学院

○全日本学生同乗予送

廿一 本院 52
25 27 1
26 21 47
横国大

廿二 本院 38
19 19 1
19 23 40
東京大学

女子部

○秋季大会

十八 本院 46
16 30 1
17 3 10
大森商校

十九 本院 26
12 14 1
15 8 13
青山学院

十九 本院 23
13 11 1
18 17 25
竹早高校

廿一 本院 37
21 16 1
2 4 5
正教高校

○全日本東京都予送

廿九 本院 28
14 14 1
18 8 26
小松川夕

三十 本院 15
5 10 1
19 16 35
B、B、C

(註)本院は全学舎院として出場



思い出す 俣 想う俣

高一 請 戸 圭 吾

・向んでバスケットなんか始めたんだらう。と僕は一人さいつも不思議に思っている。思い出して見れば僕がバスケットと云う物を知ったのが中等科一年、そして興味が出て来たのが三年の時であつたらう。当時は体格でもあれば大高びで駄置屋へ飛んでいつてボールを借り、露とけでも何んでも構わずボールを投げたり一此の時はまだシュートだけのバスケットとは云えない。単なる遊びであつた。してゐたものだ。三年も終りの頃やつと、その、味、を知つたのである。

この味を至路左地つて高等科へ進みバスケット部へ入つた。・定期的な練習、これは、ふしだらな私生活を規律のもとに置く良いいれみである、と先輩に云はれ、楽しみにしてゐたのであるが、予想外に一年の入部者が少なかつた。このことは横濱一学生の部としての活動力を鈍らせた。僕の故に、僕の弱さは上級生の間に立ち混つて練習することになどく遠慮した。一階に入つた北島などに、今日練習するかい。何んだかしたくないよ。・じや止めとこう、とあつさり決めて

誰にも告げずにさつさと帰つてしまつたものだ。全く部員として無責任な活しである。原因と云へば一年生としてのまともなやりがなかつたことが最大である。この様なことを防ぐのは、やはり上級生に責任があり、もつと多くの人を入れるべき手段を取れば良かったのである。こゝでクラス活動とはソモソモ、何んであるかという事で少し考へて見よう。クラス活動は正規の学習以外に学生の個性に依じた興味や基となり、同好者が集まつて協力し奮足し合ひ、上下級生が密接な関係を築き、下級生は進んでと上級生の教へを乞うと云うのが単にバスケットのみでなく、勉強にも私生活にも共通であることが必要だらう。だから時にはミーティングを開き、旅行することもよくてくべからざることである。

次に部員から見た生徒の理解について書こう。運動は軍隊の操に比ぶると正確に出来ず、拙々は英で自分の判断を委ねざることを好む。練習のある日、今日は何時に帰へらうかと思つてもそれが実行されたことは殆んどないといつても過言ではなからう。ゆゑに家の番の係用を失くする。又練習と勉強と両立させることになく、睡むらしい。家へ帰へるとすべネムくやつて

勉強が身に付かない、何にをしてもウツの位である。彼の者は、「勝りが悪い」「勉強しない」「居眠りばかりしている」と小言ばかりである、これではいくら練習しても無駄だという所から、一時は退却しようかとまで思つたこともあつた。ようするに教室の悪い理解ということは明らかで勉強にも、練習にも大きい影響を及ぼすものである。

ではこの辺で結しを交へて最近のミーティングなどは、強迫になつたことをこつぱかり評判して見よう。先づオーに、日々練習に試合に最大の影響を及ぼし、ホールのスポーツかどうか定める最大の向題である。練習中に「明日は映画に行こう」とか「麻雀をやろう」とかはなほだしきはへ食もしたことだが、「明日の練習はどうやつてスケよういなど考えているのではその練習が本當に自分の身に付かない無駄なものになつてしまふ。練習には精神を打ち込み、他の事を忘れ去るが迷んでイカ取頭にする程な熱心さが生れて初めて成功することが出来よう。しかし今はこんなことを書くだけで、その気さえも多ランドに於ては足らないのであるから——それならば良い結果は当然生れて来ない、又団体での練習は相手を良く知り、且つチームワークを作り上げて行くものでなければならぬ、そ

の爲にはせむとも、日々だけ練習したいものだ。というのは十一月に、女子部の途中に天に練習をしたことがあつた。たしかに取る意味その好風は持てたが、どうも体力の相違からして全体がまとまらず、ばうくに唯云われる程に動いてゐるに過ぎないというのでは練習にならないではないか。

又他の向題として、試験と練習の争いである。これは、毎度向題になることだが、練習というものは、あくまでも勉強の余暇であるから試験の前へ定期試験は別——一日は休ませてもらいたい。何にも前から勉強しておけばいゝじやないか？と云われるかもしれないが練習して得るとされるので、自然十分な勉強も出来ないと云うハンデがマアがあるから、一夜ツクでも普通に取りださねばならないのである。たとえ練習しても気分がそこへいかないから結局無駄で、アアハチ取らすの結果にもなる。普通によつて行くならば、我々に取つて重大向題である。

もうこの辺でペンを置きたい。明日の部室落成式と共に気分を転換させて種々なことにのぞみたい。

一九五二年一月二三日

以上

選手名	種別	10.10		10.10		10.10		10.10		10.10		10.10		10.10		個人総計
		15	17	18	21	22	28	30	4	5	6	11	13	14		
		日体大	学芸大	横国大	青学大	明学大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	
池田	出場時	40	23	40	38	29	37	40	40	40	35	40	40	40		422
	野由	4/9	6/8	5/9	7/12	6/12	6/11	6/11	0/4	3/10	3/	4/5	3/11	4/6		57/108
	反得	0/1	—	1/4	3/6	0/1	2/2	2/3	3/4	2/3	—	5/7	3/4	1/3		20/38
反町	出場時	40	40	40	40	40	40	40	40	35	40	40	40		515	
	野由	1/14	6/16	1/18	10/17	6/14	1/20	5/13	4/7	9/20	6/	9/25	10/24	10/14		109/205
	反得	3	4	4	2	0	1	4	4	3	4	3	3	2		37
坂口	出場時	40	45	38	30	36	39	38	40	29	40	40	36		491	
	野由	5/12	9/19	3/12	1/1	3/11	5/9	2/5	6/12	5/7	3/	3/12	6/13	5/11		58/120
	反得	1	3	3	2	5	4	4	4	5	1	4	3	5		44
堀	出場時	10	17	39	22	20	16	38	39	36	40	39	37	38		371
	野由	0/2	1/3	1/4	2/3	2/3	1/1	3/5	3/8	2/3	—	2/2	0/3	0/1		17/38
	反得	—	—	3/3	—	0/2	—	2/2	—	0/2	2/3	—	1/1	2/2		10/15
上原	出場時	37	36	3	38	30	38	39	29	33	40	40	38	40		441
	野由	9/16	4/7	0/1	5/5	3/8	3/7	5/11	3/6	4/8	3/	5/4	5/15	4/4		53/91
	反得	5	2	1	3	1	3	5	5	4	3	3	5	2		41
牧	出場時	11	17	8	5	13	22	—	11	9	5	7	2	3		107
	野由	—	1/2	—	—	0/1	2/2	—	0/1	—	—	—	—	—		3/6
	反得	1	4	2	1	0	4	—	1	5	—	—	1	—		5/8
小林	出場時	—	22	24	5	11	2	—	1	2	—	—	—	2		67
	野由	—	1/1	0/3	—	0/2	1/2	—	—	—	—	—	—	1/1		3/4
	反得	—	—	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	2		4
内藤	出場時	9	5	—	4	9	2	2	—	11	5	—	3	1		67
	野由	—	—	—	0/1	—	0/2	1/1	—	0/2	—	—	—	—		1/6
	反得	—	2	—	—	—	1	2	—	3	—	—	—	—		2/7
青木	出場時	7	20	8	16	3	3	2	—	—	—	—	—	—		59
	野由	1/1	0/1	0/2	0/1	—	0/1	—	—	—	—	—	—	—		0/3
	反得	—	—	3	2	1	1	1	—	—	—	—	—	—		1/4

昭和廿七年年度南東大学バスケット新リリ冬戦試合記録

目次

大学籠球部の讀右へ 鈴木 正三 1

再び主将となって 坂口 知夫 2
 都女子高校秋季大会を讀みて 坂井美和子 7
 才二回附屋敷を讀みて 中等科 柳谷 義夫 19
 旧七年制高校リーグ M² 34

一年回顧——部生活—— 増田 邦久 3
 無題 小田 吉平 11
 思ひ出す終・想ふ終 猪戸 圭吾 36
 無題 北 島 昌 14
 主将生活を讀みて 柳谷 義夫 28

尊敬する人々 桜 井 敏 25
 バスケを楽しむといふ事 堀 堅 次 31
 ある朝 茶 嶋 美 10
 生活 上 原 豊 三 18
 高崎遠征記 茂 木 好 大 21
 長瀬 T・K・K 13

中等科をコージして 正 田 宏 二 33
 B先輩へ 堀 堅 次 4

本年回顧 2・22・30
 人物鑑定 16・23・27
 フロアール 15
 卒業生に寄せる 29
 中等科部誌 14
 詩 12
 成る日の集果室 24